

会 議 録				
平成26年度第8回 社会教育委員の会議	日 時	平成27年2月13日(金) 午前9時30分～11時00分	場 所	小金井市第二庁舎 8階801会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出席者	委員	中村議長、原嶋副議長 樋口、石田、樹、本多 各委員		
	その他 事務局	西田生涯学習部長 石原生涯学習課長、上石図書館長、前島公民館長 牛込生涯学習係長		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
<p>1 協議事項</p> <p>(1) 第2次小金井市生涯学習推進計画の評価に係る調査について</p> <p>(2) その他</p> <p>ア 平成27年度の会議日程について</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 東センターの事業運営等について</p> <p>(2) 関東甲信越静社会教育研究大会について</p> <p>(3) その他</p> <p>ア 調布市社会教育フォーラム2015について</p> <p>イ 次回の会議内容について</p> <p>ウ うめまつりについて</p>				
<p>(中村議長)</p> <p>配付資料について、事務局の石原課長からご説明をお願いします。</p> <p>(石原生涯学習課長)</p> <p>まず、1枚目が次第書になっている。それから、最後に配付した「次の手のためにどのようにしたらよいかを。しかも迷いながら。」という紙とセットとさせていただいて結構だが、中村議長の第2次についての評価と3次についての考え方というつづり、それから皆様方からいただいた評価とご意見のつづりである。</p> <p>その後に、表組みの1枚ペラの紙がある。これが現在までの進捗状況を踏まえた上で、事務局として考えた3次のスケジュール案であり、本会議の日程など、既に日程が決まっているものについては日付を入れている。</p> <p>それから、その後、小金井市教育委員会の教育目標、裏面が基本方針になっており、生涯学習推進計画を策定する上で、教育委員会の目標と方針に沿ったものとしていく必要もあるかと考えて、資料としてつけさせていただいた。</p> <p>それから、関東甲信越の神奈川大会の報告が、1枚ペラのものとA3を折り込んだものと2つあり、あとは、「東センターの事業運営等について」ということで、報告事項の資料。それから、</p>				

袋の中には、調布市社会教育フォーラムの開催、月刊こうみんかん、図書館だよりを封入している。

こちらは委員さんからの情報提供で、うめまつりのチラシをお配りさせていただきました。資料は以上である。

(中村議長)

皆さん、資料はよろしいか。

きょうの出欠についてだが、メール配信されているが、倉持委員については、急な学生指導があって出張ということで、きょうはご欠席。宗像委員もご欠席。あと、清水委員と小山田委員については、遅れて来られるのか、ちょっとわからないが、出席は予定されている。

1 協議事項

(1) 第2次小金井市生涯学習推進計画の評価に係る調査について

(中村議長)

それでは、まず、協議事項の1番から始めさせていただく。「第2次小金井市生涯学習推進計画の評価に係る調査について」ということで、これについては、皆様をお願いしており、約半数以上、6名の委員からご回答をいただいている。

皆さん、もうメール配信されたものは、お目通しいただいているか。ここに参加されている委員の方は、本多委員がこの前、ご欠席だったので、連絡が遅れたということで、その辺はあるが、本多委員以外の委員におかれては、回答を寄せていただいている。皆さん、メールでお目通しはいただいているか。

それに補足して、各委員のほうから、この場をかりて何かご意見いただけるようであれば、いただけるか。特にないか。

(原嶋副議長)

評価するに当たってアンケートをとった。そのとった作業は、皆さん、結構大変だったと。僕なんかは17人だったが、29人、30人の方もいる。問題は、せっかくアンケートをとったのに、確かにその結果はメール、印刷物で見たが、そのご苦勞が本会議では何ら反映されていないのでは。総括までとはいかなくても、取った方々の感想や解説を頂く場面が必要なのではないか。

結局、パブコメで求められている視点のひとつは、市民のアンケート、あるいは市民の意向を委員会がいかに反映しているかだと思う。

以上である。

(中村議長)

今、原嶋副議長からのご指摘、まさにごもっともなことだと思う。ですので、せっかく各団体にいろいろ意見を集約していただいているので、社会教育委員での議論の結果を何らかの形でフィードバックするという必要はないかというのは、当然あると思う。

一例として、皆さんに寄せていただいた意見を、各団体に書面という形でフィードバックするのも、一つの方法ではないかと思う。

ですから、皆さんのほうから、第2次生涯学習推進計画について評価していただいたところに、当然、アンケートの項目も入っているので、それらを各団体に書面という形でフィードバックするのはいかがかと思う。いかがか。

じゃ、そういう形で、それをもとに議論しているということは、書面という形で見せるのは妥当かと思う。事務局のほうで、それをまとめていただいて。可能か。

(石原生涯学習課長)

ちょっとイメージがわいていないのだが、今回お配りしたものが、評価と項目も踏まえた上での評価で、これにアンケート結果として過去まとめた、結構、ボリュームがあるものを加えて、一つの別冊ではないが、そういうものを。それはもう既にあるのだが、それを皆さん方で各団体へ、うちの団体からとったのはこの部分というふうに切り取ってもらって、各団体にフィードバックというイメージなのか。

(中村議長)

そうだ。今、石原課長がおっしゃったような感じでよろしいのではないか。ご自分のところの団体の分だけのまとめと、各社会教育委員からの意見ということで、つけていただくのはどうかと私は思うが。これについて、皆さんからご意見あるか。私は今、石原課長がおっしゃったような形でどうか。

(樋口委員)

先ほど言われていたように、PTA関係だったら、特にPTA関係の内容でとったアンケート以外に関しては、なかなか理解しにくかったり、いろいろあるので、その回答でという形が、一番合っていると思う。

(中村議長)

そうだ。だから、P連から出していただいたのをまとめた分と、プラス、各社会教育委員からのコメント、意見を加えて。それはほかの団体も同じである。例えばP～ステップさんでしたら、P～ステップさんで集まったまとめと、それから、各社会教育委員のコメントということである。その方向でご異議なければ、つくっていただいて。

(石原生涯学習課長)

そうすると、団体の集計というのは、各団体さんにつくっていただいているので、もう既にお持ちだと思う。体協だったり、P～ステップさんなり、ソロプチさんなり、文化連盟さんなりお持ちだと思うので、今回、一応、皆さんに考え方について、全体を共有するために送っているが、送られていない部分があるので、それを追加で送って、それで皆さん方がまとめていただいたアンケートに各委員からの意見も添付して、各団体のほうにお返ししていただければ大丈夫かと思う。

(中村議長)

その際に各委員の名前を入れるかどうか。入れるか、それとも、もう入れずにこういう意見だということを出すか。

(石原生涯学習課長)

委員さんのお名前が出るか出ないかは、委員さん方の中で、出したい、出たくないということ……。

(中村議長)

どうか。各委員、誰が書いたというのをはっきりしたほうがいいか。皆さん、ご意見おありか。出すか。それとも伏せて、こういう意見が6人からあったという形だけにするか。

(本多委員)

6名の意見ということで個人の名前を伏せてはどうか。

(中村議長)

伏せたほうがいいのか。

(石原生涯学習課長)

きょう、お配りしなかったのだが、石田委員もつくっていただいた。

(本多委員)

はい。見やすく出来ている。

(石田委員)

添付して、皆さんに送っていただいている書類ですね。

(石原生涯学習課長)

はい。

(樹委員)

読んだ。石田委員のものは担当課別に分けられたもので、それはまたとても。

(石田委員)

担当課別に分けないと、何がどうなって、どんなことがあるのか、私、全然わかっていないのである。それで、担当課別に分けて、これは重複しているとか、これは生涯学習から要らないんじゃないかというのが結構見えてきた。

(樹委員)

私は、できれば名前を出していったほうがいいのかと思っている。やはり市民の税金で成り立っている会議でもあるし、社会教育委員というのは何をやっているんだろう、何を考えているんだろうと、存在を知らない人もたくさんいらっしゃるのだが、やはり高い意識を持っている方たちは、そういうふうに見ている方もいらっしゃるので、出す内容があまりにも雑駁で恥ずかしいと、自分のを見ていると私は思うのだが、やはり、そういうことをいろいろ考えている人たちがいるんだというのをわかっていただく意味でも、名前を出していくということは大事なんじゃないかと思う。

あと、P～ステップに関して言えば、各団体さんが、それぞれ違うところをアンケートをとってこられているわけである。なので、ほかの団体がとったアンケートの部分も、わかる、わからないではなく、皆さん、こういうことを目指して、こういうを考えて、こういう活動をされてい

るんだということをわかっていくためにも、できるだけ、P連はこういうふうに言っている、文化連盟はこういうふうに言っているんだということを、P～ステップのメンバーに伝えていく意味でも、アンケートの内容というのは、できれば全公開をしていきたいと思っている。そこに対して興味を持つか、理解するかというのは、それぞれの人によるわけだが、P～ステップの活動をしている人たちは、P～ステップの活動だけをしているわけではないので、PTAをやってきた方もいれば、文化連盟とか、そういうところには入っていないが、ほかの活動をされている方もいらっしゃるので、広く知らせていくことがいいのではないかと考えている。

(中村議長)

ありがとう。石田委員、今のことについて、いかがか。

(石田委員)

私は、名前を出すことには賛成である。やっぱり税金をいただいている責任というのはあると思う。

私、この前、いただいた体育関係とか、皆さんにそれぞれまとめた、これも一応、会員には報告しようかなと個人的には思っている。

(中村議長)

ほかの団体の分も含めてか。

(石田委員)

はい。全部。こういうことを考えているんだと。会の代表で来ているので、そういうことを報告することも義務かなと私は思っている。

(中村議長)

樋口委員、今の点でいかがか。名前の件と、ほかの団体からのアンケート結果を広める。

(樋口委員)

私の考えとしては、まず、名前を出すのはいいと思う。幅広く周知するとか、認識とか、触れるために、ほかの団体もという考え方はもちろんあると思うが、アンケートの結果というのは、どの部分の。最初、この回答でまとめた、PTAだったら、かなりの枚数がある。この部分をこのままか、こちらの協議会でまとめてある、どれをするかによって、あまり枚数がたくさん過ぎると。逆にPTA関係なんかだったら、あまり多過ぎて、配ったはいいいけれども見なかったという形も出てきそうである。

(原嶋副議長)

ちょっとよろしいか。僕のほうは、スポーツ関係のアンケートをとった。どなたが出したのか大体わかるので、例えば体協の理事に、渡した。あと、スポーツ推進とか、小金井クラブさんにも、協力していただいている。

私の言いたいのは、せっかく夏休みを中心にご労苦された方々がいらっしゃるわけである。それを総括するなり、感想を言う場を設定すべきだったと反省していることを僕はお話ししていたわけである。

(本多委員)

私は文化連盟であるが、私の場合、少し雑駁になるかもしれないが、まず、社会教育員は何をしているかということから始まり、今回、皆様に認識していただけたことが大きかった。理解することまでは難しい。全文を個々に配布するのではなく、閲覧方式で主立った、方々に回覧しようと思う。

文化連盟に関係するところにマーカーを引き、全部は回覧したいと思っている。

(中村議長)

今、A4の横でいただいた、これをフィードバックされるのがよろしいんじゃないかと私は思う。

(石田委員)

ただ、これはメールで、添付されて送られていない。配付でいただいている。

(中村議長)

メールじゃなかった。書面だった。

(石田委員)

配付でいただいているものである。

(石原生涯学習課長)

これは改めて皆さんにメールでお送りする。

(石田委員)

メールでいただければ、個人ですることも可能である。

(石原生涯学習課長)

当日配付だった原嶋副議長のご意見を皆さんにメールで送るとあわせて、集計表のほうも送らせていただく。

(中村議長)

お手数だが、送っていただいて、それを各団体のほうや、各代表の委員のほうから、お礼を込めてフィードバックしていただくということをお願いできるか。

では、第2次小金井市生涯学習推進計画の評価に係る調査については、以上でよろしいか。きょうご欠席いただいている方から、一部、ご意見をいただいているが、それはまた、おいおい、どうなっているかということ、私のほうから投げかけてやってみたいと思う。

協議事項1について、ほかに皆さんのほうから何かご意見はないか。よろしいか。では、協議事項2「その他」ということで、石原課長のほうから願います。

(2) その他

ア 平成27年度の会議日程について

(石原生涯学習課長)

(1) にも関連するが、私一人の頭の中だけでつくったスケジュールであるので、皆さん方のイメージと違うのかもしれないが、スケジュールをつくって……。

(中村議長)

このスケジュールか。

(石原生涯学習課長)

はい。

(中村議長)

このA4横である。

(石原生涯学習課長)

一番上の会議で、社会教育委員の会議の本会議、年8回で、もう既に、平成27年度中の日程、日付を皆さんにご同意いただいているので、具体的な日付入りでつくった。9月8日が、皆さんの任期満了日であるので、今までのお話の中では、9月8日までに、次の人にあまり引き継がない形で、第3次の計画について取りまとめをしたいというお話だったのかなと思います、そのスケジュールに合わせたものを、私だけの判断なので、皆さん方のイメージと違うかもしれないが、素案をつくるとか、素案の完成とか、計画案のたたき台とか、現社会教育委員の最終案取りまとめということを入れさせていただいた。

2段目については、小委員会の開催日程で、既に開催が決定している3月19日と4月9日の日程を入れさせていただいて、平成27年度についても、小委員会については年5回の予算。ただし、第3次の計画策定の作業があるので、委員の方については、全員の委員さんが参加可能な予算を計上しているので、議決が得られれば、そういった形での開催が可能となるということである。

その下が、事務局の作業スケジュール、その下に、コンサルの作業スケジュールということで入れさせていただいた。

これに関連して、教育委員会としての教育目標と基本方針についても、資料としてお配りしたものである。

以上である。

(中村議長)

ありがとう。一応、このスケジュールをざっとお目通しいただいて、これについて皆様のほうからご意見あるか。

願います。

(石田委員)

日付が、4月、5月と入っているが、これは社会教育委員の会議、この会議の決定日ということか。

(石原生涯学習課長)

一応、皆さんに調整して、この日、この日と、1回、言っていた日を入れたところである。

(中村議長)

本会議の日にちは、会議室はとれているのか。

(石原生涯学習課長)

会議室をとる必要があったので、皆さんに日付を決めさせてくださいとお諮りしたものである。

(中村議長)

ですから、とれている？

(石原生涯学習課長)

そうである。

(中村議長)

場所はここか。

(石原生涯学習課長)

801を。

(中村議長)

本会議も全部、801ということか。

(石原生涯学習課長)

はい。

(中村議長)

ということで、本会議の一番上のところについては、もう会議室は確保できているということである。

小委員会については、3月19日と4月9日、これも会議室はとれているのか。

(石原生涯学習課長)

そうである。

(中村議長)

小委員会の場所はどこになるのか。

(石原生涯学習課長)

これは602だったり、801だったり、小委員会は固定していないので、会議室は追ってお知らせする。

(中村議長)

じゃ、場所のほうも、またメール配信していただくようお願いできるか。

(石原生涯学習課長)

はい。

(中村議長)

じゃ、小委員会のほうについては、場所はまだ今のところ未定だということか。

(石原生涯学習課長)

はい。参加可能の予定の「定」が切れてしまっているが。予算が通ればという原則が。

(中村議長)

議会の承認が得ればということか。

(石原生涯学習課長)

はい。

(中村議長)

新年度の4月からということである。小委員会の5月以降のところに、「以降4回開催可能」ということだが、これについては、できるだけ前倒しの方向で。上期になるべく多めにという方向でよろしいか。

(石原生涯学習課長)

はい。

(中村議長)

この日にちというのは、きょう、この場で決めるのか。欠席の委員の方が多く関係もあって、まだきょうは決めずにおくか。どうするか。4月までは決まっている。ちょっときょうは出席委員が少ない関係もあるので、3月の小委員会。以降4回については、私と事務局のほうでご相談させていただいて、候補の日にちを上げさせていただいて、皆さんにお諮りするということはいかがか。よろしいか。

きょうはまだ決められないと思うので、その辺も、上期にできるだけ前倒しということ考えていきたいと思うので、あとでまた、皆さんにお諮りさせていただく。

(原嶋副議長)

時間的な柔軟性というのがあるのか。いつも9時半に始まるが、その時間を移してはまずいのか。

(石原生涯学習課長)

できれば、本会議については、場所もとれているので、この日付と、9時半から11時半という時間帯を尊重していただきたいと考えている。

(中村議長)

小委員会において、おっしゃるような、例えば夕方遅い時間帯から始めるような感じでということはいかがか。

(原嶋副議長)

できるだけたくさんの方がお集まりになったほうがいいと思う。

(中村議長)

ただ、本会議については、一応、全委員の了承を得ているという理解から、これはあまり動かさないほうがいいかもしれない。小委員会のほうは、まだ調整可能だと思うが。

(中村議長)

じゃ、この場で、今いらっしゃる委員さんの中で、5月以降の小委員会の4回の曜日とか時間帯のご要望があれば、上げていただければ。最大公約数的に決めていきたいと思うが、いかがか。

もちろん、上の本会議を避けた日にちで、曜日とか時間帯は白紙の中で考えていただけると。各委員さんからご要望があれば、できる限り、かなえるように動きたいと思うが、いかがか。

(本多委員)

スケジュール表を今見ている、5月、6月にコンサルタントの調整がある。それを踏まえて日にちを前に持ってくるということか。

(中村議長)

そうである。

(本多委員)

5月も6月も前のほうで。

(中村議長)

5月の上旬という感じか。15と21がもう入っているから。連休明け。

(石原生涯学習課長)

コンサルだが、一応、我々の心づもりでは、4月中にも契約業者を決めてもらいたいところではあるが、契約の担当課のほうで、優先順位とかで順番にやっていく関係で、必ず、我々の要望どおりに契約できるかというところは、確約ができないので、場合によっては連休明け、5月のゴールデンウィーク明けに契約というふうにはずれ込むと、5月の早々みたいな日程で組んおくと、まだ契約できていませんという可能性も出てくる。

(西田生涯学習部長)

もっと端的に言ってしまうと、大体4月ぐらいにやると、5月の上旬に決まるのが常である。逆に、5月上旬に日程を組んでしまうと、コンサルが決まっていない可能性のほうが高い。できれば、小金井市の議会ですとか、会議等でも、来年度以降というのはこれから決まっていくことがあるので、できれば、きょう確認していただくのは、日付とか云々じゃなくて、何曜日の何時ごろがいいとか、逆に何時ごろが悪いとかという、大まかな筋で合意がとれればと。

(中村議長)

私もそのように考える。

(石原生涯学習課長)

何日ということではなく。

(中村議長)

逆に皆さんのほうで、だめな曜日とかだめな時間帯とか、そういうのがあれば。個別にお聞きする。順番に樹さんから。

(樹委員)

私は、特に、何とか調整はできると思うが、何より倉持先生の日程をお決めいただきたいという気持ちでいっぱいである。

(中村議長)

わかった。ありがとう。樋口委員はいかがか。

(樋口委員)

ちょっと先のことは。PTA関係の役員のいろいろなものが入ってくると思うので、とりあえず、それこそ組んでいただいて、合わせていくという形しか。

(中村議長)

はい。本多委員。

(本多委員)

私の場合だが、5月は本会議と三者懇談会議がある。5月は下旬の週は良いが、都合が悪いのは、6月8日からの2週目が予定が入っている。

(中村議長)

個人的にか。

(本多委員)

個人的に。6月の2週目、8日から14日まで。

(中村議長)

8日から14日がだめか。

(本多委員)

はい。

(石原生涯学習課長)

8日から14？8日の週がだめなのか。

(本多委員)

そうだ。2週目が全部。夕方とかなら大丈夫である。

(中村議長)

夕方は大丈夫なのか。

(本多委員)

大丈夫である。

(中村議長)

石田委員。

(石田委員)

私、火、木がほとんどだめである。水曜日、第1、第2、第3がだめである。

(中村議長)

火、木がだめか。

(石田委員)

はい。第1、第2、第3。社会教育なんかは、21日に、もうわかっていたので、その日は抜かして第4にずらしているが。あと、水曜日が、午前か午後、どちらかだったら、ずらせるので

対応できる。

(中村議長)

水曜日は大丈夫なのか。

(石田委員)

はい。どっちかだったら出られる。

(中村議長)

どっかというのは。

(石田委員)

午前に会議があったら午前、午後に会議があったら午後というふうに、どちらかだったら対応できる日である。あと、夜6時以降は、いつでも平気である。夜なら大丈夫である。今、夜のお茶会が入っていないので。

(中村議長)

じゃ、火曜日とか木曜日も、夜だったら大丈夫なのか。

(石田委員)

大丈夫である。

(中村議長)

原嶋副議長、いかがか。

(原嶋副議長)

僕は火曜の夜がだめである。あとは、あけておく。

(本多委員)

やはり倉持委員に出席していただきたいので、スケジュールを組んでもだめになる可能性が出てくる。多分、新学期になられると……。

(中村議長)

そうだ。4月からは。

(石田委員)

水曜日は授業があるからだめと、去年、おっしゃっていた。

(中村議長)

新学期で変わる。じゃ、倉持委員を最優先で。

(石田委員)

最優先でいいと思う。

(中村議長)

石原課長のほうから聞いていただいてよろしいか。

(石原生涯学習課長)

はい。

(中村議長)

では、皆さんのご意見を承ったので、それに加えて、倉持委員のスケジュールをよく把握した中で落としどころを決めさせていただきたいと思う。

これは、また改めて事務局とご相談させていただいて、早めに皆さんのほうに配信させていただく。

(原嶋副議長)

新教育長のことを今伺ってしまうと、まだ、議会との関係で…。

(石原生涯学習課長)

新教育長は、来年の10月1日就任の予定である。

(西田生涯学習部長)

任期中は、今の教育長と制度は、基本的にはそのまま流れていく。9月30日で今の山本先生の任期が切れてしまうので、そこから新制度に。新制度、前から入っているところだが、おおまかに言えば、そう思っていていただければ。10月までは、今までどおりの感覚でよいと思う。

(中村議長)

10月までか。9月？

(石原生涯学習課長)

9月30日。

(中村議長)

9月30日？

(西田生涯学習部長)

はい。

(中村議長)

結局、教育長の権限は大分変わるということか。教育長と、教育委員長の。

(西田生涯学習部長)

委員長がいなくなってしまうという感じになるので、教育長と教育委員長が、イコールになるという感覚がいいと思う。

(中村議長)

そういう意味か。

(西田生涯学習部長)

はい。市長の役割が、また加わってくる。立ち位置がはっきりしてくる形になる。

(中村議長)

一言で言えば、行政の裁量が強くなるということか。

(西田生涯学習部長)

裁量ということはない。裁量は、全部、行政委員会である教育委員会が持つが、意見がいただけるのである。

権限はないが、行政というか、市長部局はこう考えるということは、はっきりお伝えできるよ

うになるのではないか。

(原嶋副議長)

ありがとう。わかった。

(中村議長)

それから、今、第3次の計画にかかわるスケジュールの件について議論したが、大事な点があると思う。考え方である。第3次の柱となる、どういう方針でつくっていくかという、その辺が一番大事な点になってくると思うので、その辺については、第2次の評価も踏まえた中で、皆さんの中でどういう柱を、幾つかの柱が必要だと思うが、どういう柱で何を考えていくかというのを、それぞれで考えていただきたい。それらをすり合わせて、いいものをつくっていききたいというのがあるから、当然、第2次よりも中身の濃いものを、我々の期でつくっていききたいので、その辺は日ごろお考えのことがあろうかと思うので、各委員のほうで、聞かれたときに、私はこう思うというところをすぐ出せるような形で考えておいていただく、その準備をしていただければと思う。よろしく願います。

4月になると、もう待たなしでスタートになるので、そのスタートの段階で、準備できているか、できていないかで、やっぱり違ってくると思うので、そのあたりの、どういう方針でつくっていかうかというところは、各委員のほうで、よくよく考えていただきたいと思う。

(原嶋副議長)

今、議長がおっしゃったことは大事で、今日みたいに大事なことをお話しされているのだが、4人お休みである。今後、しょっちゅうお会いする機会が多くなるから、メール等でのやり取りも考えられる。

(中村議長)

ちょっと事務局のほうにお願いだが、議事録も早めに。お忙しいとは思いますが、要点だけでいいと思う。大体こういう意見が出たからということで、欠席の方と出席の方と、同じ情報の量が必要だと思うので。特に、議事録について、なるべく早めに、今、伊東さんがお休みだが、議事録はタイミングよく、欠席委員に配信していただきたいというお願いである。そうでないと、今度やったときに歩調がそろわないと思う。今後、そういうケースというのが、かなり多いから、みんなが歩調を合わせないと、いいものがつくれないと思う。そういう意味で、議事録は早めに、要点だけで結構だから、欠席委員に配信をいただきたいというお願いである。

では、基本的には大体そういう方針で、スケジュールも、大体のところは出た。考え方も、皆さんのほうでよくもんでいただくということとともに、基本となる、事務局でご用意いただいた小金井市教育委員会の教育目標と、小金井市教育委員会の基本方針、この辺を頭に入れながら、皆さんのほうでもお考えいただきたいと思う。基本方針1から4、それから、教育目標については3項目。この辺を土台に、いろいろなことを起案していただきたいと思う。

(石原生涯学習課長)

1点、よろしいか。

(中村議長)

願います。

(石原生涯学習課長)

今、市のほうで、平成28年3月31日までに第4次基本構想の後期基本計画というものの策定作業中である。市の最上位計画になるので、生涯学習の分野について、今回の第3次の基本計画の中に書き込みがあるものでなると、後期基本計画に反映されないということもあるので、今回の第3次について、計画期間を何年にするかというところは、あまりご議論はされていないが、今後、5年間の中で、生涯学習関係で取り組むべき施策として、上位計画の中にも、一定の書き込みを入れるべきということは、この中に入らないものについては一切取り上げられないということがあるので、そこも、皆さんの頭の中にちょっと入れておいていただくと助かる。

(中村議長)

例えば前の会議でもお話があったと思うが、長期計画の審議の途中状況というのは、逐一、教えていただくことは可能か。

(石原生涯学習課長)

はい。もうそろそろ、長期計画審議会も、後期計画の策定に向けて動き出すので、長期計画審議会は公開でやるものなので、そこで出される資料なども、全て公開できるような状態にして行われるので、その中から、皆さん方に関連する情報があったら、こういった会議の場で……。

(中村議長)

会議資料で準備していただけるか。願います。

(原嶋副議長)

時間が合えば、学校教育を中心としている例えば統括指導主事などに来ていただき、話を聞く場面を計画しても良いのでは。

(西田生涯学習部長)

ご参考までに申し上げますと、審議会ではないが、特別職公務員のスポーツ推進委員は、やはりスポーツというのはちょっと学校教育と違うので、それでも教育委員会の中にあるので、それで教育委員会の中で、自分たちはこういう活動をしていることを知ってもらいたいということで、人数が20人以上いるので全員で対話という話にはならないと思うが、役員さんなどと教育委員さんで懇談する場を近々設けるという話もあるので、学校教育のほうと意見交換するのがいいというのと、意見交換するのがどうかというようなところも、ちょっと可能性はあるかなと思う。

(中村議長)

今のお話と関連して、教育委員のお一人の福元委員におかれては、前の前原小学校の校長先生だった。その方が長期計画委員のメンバーになっている。ご参考までに。これはたしか市報か何かで公表されていることだと思う。教育委員のほうからの出向という形で福元委員が長期計画委員の中に入っておられるということで、ご参考までにお伝えする。

それと、皆さんもメンバーの中に必ず入っておられるのか。

(西田生涯学習部長)

長期計画策定本部に私が入っている。

(中村議長)

あ、西田部長？

(石原生涯学習課長)

部長は本部員で、我々は部会ということで、本部の中でこのことを集中的に議論してほしいというのをそれぞれ割り振られて。

(中村議長)

分科会的なところで。

(西田生涯学習部長)

だから、基本的にはここでいろいろあった話というのはボトムアップ形式で長期計画をつくっていくので、一番最初に吸い上げていって、最後は市民の方も交えた長期計画審議会、福元先生が入られたところでもんでいくというような形で、またそれで出てきたものをフィードバックしていくという形をとるので、活発な意見を言うていただければ、この3人が全員分科会の会員になっているので、いろいろな意見というのがそこでまず取り上げられないと上に上がっていかないので、そういう意味では非常に3人の課長が大切な役割を果たす。ぜひいろいろ気がついたことをおっしゃっていただいて、こういうものも視野に入れていこうよという話を活発に、ちょうどいい機会という言い方は変だが、この社会教育委員の中でやっていただけると、逆に言えば助かるという部分もあるのでよろしく願います。

(中村議長)

そういう意味でも、ちょっと皆さん自身で、先ほど私から案内したように、よく考えていただいて、いいものはぜひつくってみたいと思う。

では、今の件で皆さんのほうからご意見がなければ報告事項に移っていただいてよろしいか。石原課長に願います。

2 報告事項

(1) 東センターの事業運営等について

(石原生涯学習課長)

それでは、東センターの事業運営等について、事務局のほうから報告する。

(前島公民館長)

本日、資料をお配りさせていただいている。簡単に説明させていただく。まず私のほうから、図書館、公民館の複合施設ということで、東センターの事業運営について概要をお話しさせていただく。この件については、平成27年1月23日、前回開催された本会議において、図書館サービスの見直しについて、また、公民館業務の見直しについてということで、答申について諮問とあわせて報告させていただいた。東センターに係る事業運営の見直しについて、図書館協議会と公民館運営審議会にそれぞれ諮問を行い、答申をいただき、東センターの事業運営委託の開始

時期についてはいただいた答申内容を勘案の上、検討させていただいている状況について、方向を報告させていただいた。

その際、見直しの開始時期については適宜報告させていただくと考えていたが、結論として、平成27年8月とさせていただきたいと考えているところである。今までの説明とかぶるところもあるがご容赦いただきたいと思う。

図書館及び公民館では、図書館サービス及び公民館業務の見直しを検討し、市民同士の信頼関係の醸成、市民協働・公民連携の深化、より一層の市民の利便性向上を図るため、NPO法人市民の図書館・公民館こがねいによる東センターの委託について、図書館協議会、公民館運営審議会に諮問をした。

それぞれ12月に答申をいただいております、委託についての方向性については先般説明させていただいたが、留意事項等はあるが、おおむね了とされているところである。そこで、検討の結果、答申を尊重し、次のように考え方をまとめさせていただいた。

東センターをNPOに委託する効果として、まず図書館、公民館双方に言えることとして、貫井北センターでのノウハウを生かした運営。また、図書館、公民館の連携による事業の拡大など新たな発想による事業展開。専門的なスタッフによる市民サービスの拡大。市民による運営と、市民である利用者との対等の立場による事業展開に基づく市民同士の信頼関係や、行政との市民協働・公民連携の深化に基づく信頼関係により期待できる社会教育活動の充実。直営館とNPO法人が互いに刺激し合い、切磋琢磨する向上の機会になる、また相乗効果による社会教育行政への意識向上と市民サービスの向上という、大きな利点を掲げている。

さらに、市民サービスの向上とともに財政面でも特に顕著な効果があるのは図書館で、直営形式では多くの一般財源を要する開館時間、開館日の拡大が効率的に図れるところである。少ない財源で年間の開館時間、開館日が大幅に増えることになり、市民の利便性が格段に向上する。

次に、東センターの事業運営の開始時期であるが、図書館協議会、公民館運営審議会の答申において強調して指摘されていたのが、丁寧な利用者等への説明である。図書館、公民館とも東センターの利用者懇談会を開催し、その結果を踏まえ答申をいただいたが、特に公民館のほうは、今後かかわっていく東分館の利用者の方々への説明を丁寧に行うことによって、今まで築き上げてきた公民館と利用者間の信頼関係をより高めていく機会ともなると考えているところである。

また、図書館についても同様に利用者への説明について、十分な説明をするように指摘されているところである。こういったことを勘案し、市民、利用者丁寧に周知する時間、さらにNPOとも丁寧に調整する時間を考え、円滑な事業運営を開始するために、先ほど説明をさせていただいたとおり、8月からNPOによる東センターの事業運営を開始したいということで、精力的にこれからも取り組んでまいります。

NPO執行部とは、本件に関してお話ししているところであるが、さらに市の状況も段階に応じて提供して、8月からの東センターのNPOによる運営開始を行っていくため、連絡を密にして、丁寧に調整してまいりたいと考えている。

(上石図書館長)

続いて、移動図書館車運行廃止及び西之台図書室拡充について、概要をお話しさせていただく。こちらも従前の説明と同様のところがあるが、ご容赦いただきたい。

図書館では、昨年4月に貫井北分室が開館したことにより、市内全域に図書館施設が整備されたこと、よって、移動図書館車を廃止することを考えた。同時に、全体の図書館サービスの見直しもして、西之台図書室のサービス拡充についても、先ほどの東センター委託同様、図書館協議会に諮問をし、先般お伝えさせていただいたように、留意事項等はあるものの、おおむね了とされているところである。そこで検討の結果、この答申を尊重し、次のように考えをまとめさせていただいた。

移動図書館車運行廃止及び西之台図書室拡充についてである。昭和62年から長きにわたり移動図書館車を運行してきたが、図書館施設がほぼ地域の全域に設置されたことや、現在の移動図書館車の利用状況、他市との相互協力等の状況も踏まえ、一定の役目を果たしたと考え、廃止させていただくことになった。また、坂下地域唯一の図書館機能を有する施設である西之台会館図書室については、現在まだ十分な運営内容とは言い難い施設であった。今後、開館時間、開館日の拡大をはじめ、市民サービスの拡大、利用者の利便性を図っていきたいと考えている。

最後に、移動図書館車の廃止及び西之台会館図書室のサービス拡充の開始時期についてであるが、移動図書館車は今年度末、27年3月末日をもって廃止とし、西之台会館図書室拡充については今年の4月開始とするため、精力的に取り組んでまいらる。

以上で説明を終わる。よろしく願います。

(中村議長)

ちょっと質問であるが、8月から始めるということは、具体的には8月1日を念頭に開始の時期を考えておられるという理解でいいのか。

(前島公民館長)

そのとおりである。

(中村議長)

東センターの事業運営等について、皆さんからご質問、ご意見等はあるか。

それと、私は市のホームページで拝見したが、利用者懇談会を近々行う、その辺のスケジュール等を教えていただきたい。

(前島公民館長)

公民館のほうは、今日はお持ちしなかったが、東分館の利用者懇談会をまず2月22日の日曜日に開催させていただく。23日の月曜日にも開催する。3月に2回ほど、3月25日、3月26日ということで、今回の22、23日については、先般行った26年の11月13日にいろいろいただいたご意見に対しての回答とか、そういうものも含めて、東分館の事業運営の説明をさせていただきたいと思っている。

また3月については、東分館の見直しについての進捗状況とか意見交換とか、そういうものが

行えたらいいと考えている。

3月についてはホームページ等、市報等の掲載も用意している。2月22日、23日のほうはホームページだけ、あとは利用者の方への直接的な、お渡しするような周知方法を、前回同様な形でとらせていただきたいと思っている。その後もこれで終わりというわけではなく、4月以降の月1回程度、利用者の方と懇談会を持って、またそこで出た意見などを含めて運営に反映できるようなものがあれば、吸い上げて反映させていければと考えている。

(上石図書館長)

図書館のほうで、2月23日に図書館の関係団体と言い、地域文庫の方々、それとほかにも関係団体があるので、そちらの方々に文書で案内を渡して、1回設ける。

あとは一般の方、利用者懇談会ということで、先ほど公民館長が言ったとおり、3月25日と26日、同じ日に時間帯を変えて2日間、一般の方との懇談会ということで、利用者懇談会を考えている。やはり4月以降は、進捗状況等を鑑みながら進めていきたいと思う。

(中村議長)

市のホームページにアップしていたのは公民館のほうだけか。

(上石図書館長)

そうである。

(中村議長)

図書館はアップされないのか。

(上石図書館長)

図書館は、2月23日については文書発送なので、3月25日と26日は15日ごろに載せる予定である。

(中村議長)

市報の？

(上石図書館長)

はい。

(中村議長)

できれば公民館と連携をとって、同じようなタイミングでできないのかなと。

(西田生涯学習部長)

実は、公民館と図書館は施設の性格が違って、図書館のほうは協力団体というか、いろいろ協力をいただいている関係の深い団体がある。

(中村議長)

文庫連とか。

(西田生涯学習部長)

そうである。その方への説明をまずさせていただくというのがあって、公民館はほんとうに利用されている方は多くいらっしゃるの、そういう方に最初から説明をしていく。図書館は、ま

ずそういう関係団体に説明してから、先ほども言ったように、3月の日程については図書館と公民館とあわせて、時間帯はずらすが、一緒にというか、来られた方が両方の説明を聞けるような配慮をしながらやっていくという形をとろうとしている。

(中村議長)

わかった。一応、趣旨はよくわかったが、新たな運営形態になることによって、かいつまんで説明していただくと何がよくなるのか。そこがやっぱり、利用者として一番関心事だと思う。もう、要点だけ言っていただければいい。

(前島公民館長)

まず基本的には、今、伝統あるというか、従来からある公民館なので、まず基本的にはその運営をそのまま継続してやっていただくというのが前提になるが、なかなかサービスが見えにくいのかなと思う点も含めてお話しさせていただくと、今、貫井北のほうでも若者コーナーということが大変力を入れてやっていただいているということがある。

地域全体を見ると、やはり、若者の居場所というのは非常に重要だと。ただ、あまりない。公民館のほうとしては、やはりその辺も含めて拡大できればなという思いもあって、NPOさんのノウハウを生かした運営ができるだろうということを考えている。

また、当然専門的なスタッフがそろっておるし、いざ8月となればそういう方を採用していただけているので、志の高い方が、利用者の方への支援なんかを十分行っていけると思っている。

それとあと1つは、北のほうでは図書館と公民館と連携した事業を行っているので、またそういったところもほかの館に広げられていけるノウハウを持っている、そういうことも期待している。雑駁にはそんな感じである。

(中村議長)

ありがとう。

(上石図書館長)

図書館のほうは目に見えてというか、開館日、開館時間が大幅に拡大される。今考えているのは、北と同じ開館時間数ということで、約1.69倍ということになる。平日が9時～7時ということで、今まで10時～5時だったものが3時間単純に広がる。あとは休館日が、月5休んでいたものが月2に変わるということで、全体で、1,300時間ということである。とても拡大が目に見えたところが、それが一つである。

あとは、職員の質ということをメリットとして挙げている。今のNPOさんには司書資格者100%ということをお願いしている。今現在、直営館では司書が非常に少なく、私を含めて4名、15人中4名となっているので、とても少なく、26%という数字になるので、100%と26%となっている。

それとやはり、先ほど言ったように、公民館との連携ということで、より多くの、今までにな

い新しい展開というか、行事が開催できるので、集客率というか、図書館を知っていただくということができていくと思う。本を貸し出しするだけではない、新しい図書館という形が、今のほうでは展開されているなど思うので、それを東分室のほうでも、より一層ノウハウを生かした、充実した行事等で図書館運営をさせていただけるかと思っているので、それをメリットとして考えている。以上である。

(前島公民館長)

あと、行政側からすると、なかなか利用者の方にはわかりにくいのかなというところが市民協働だと思っている。私個人としては、やはり市民の方と協働していくということが大事だと思っているが、それでNPOさんのほうにお願いをして、今、市民協働という考え方をもとにしているわけであるが、なかなかその辺は利用者の方にはわかりにくいかという思いがあるが、市としては、やはりそういったことを拡充していくというのが使命だと思っているので、そういうものも含めて説明させていただきたいと思っている。

あとは、財政効果もあるということで、させていただく。

(中村議長)

ありがとう。ということは、東分室については、今、貫井北で展開されているNPOを念頭に考えておられるという理解でよろしいか。皆さんそうだと思うが、私は結構よくあそこに行き、特に図書館のイベントなんかについては新たな試みをどんどんやっておられる。

例えばちょっと挙げてみると、新年から始まったもので、新春かるた大会、それからビブリオバトルもあるし、あとは読書会、これは新たに設定されているし、もっとほかにももろもろ、いっぱい新たなことをやっておられて、図書館の利用者にとってはかなりアピールされている。実際、それで入館者数も増えているのではないかと思うが、ちょっと細かな数字は把握していないけれども、そういう意味で、NPOに委託運営された効果というのは、私は出ていると思う。それが、なぜ、反対する人はかなり公民館部門においてはいると聞いてはいるが、反対する理由が見当たらないんじゃないかと私は思う。だから、ここはもっと、今、図書館長、公民館長からお聞きしたようなメリットがあるわけだから、どんどん推進していただきたいと私は個人的に思っている。なぜ反対するのか。

(西田生涯学習部長)

そこは今度、市民の方に丁寧に説明をしていきたいということで、実は、当初4月にこれを開始したいということで諮問と答申をいただいたが、やはりそういうところを誤解とか、あるいはちゃんと伝わらないままやってしまうと、逆に懸念に思っている方の心配が払拭されないまま行ってしまうので、その部分を丁寧にやりたいというのが現場サイドの人の考えで、8月にちょっと、4カ月間猶予をくださいということでやってきた部分もある。

(中村議長)

だからその利用者懇談会も、何回にもわたって丁寧にやっておられるので、それはもうご理解いただかないと思う。理解いただけると私は思うが、頑張っていたきたいと思う。でも、

ちょっと大変だと想像はするが、よろしく願います。

東センターの事業運営等について、何かご意見は。本多委員。

(本多委員)

ちょっと細かいことだが、北町センターというネーミングができたので、東町センターというネーミングではどうかなと。何か、覚えるときに違うように見えてしまう。本町分館の近くだが、本町分館も、今度は公民館とまた違う形になるのか。

話が戻るが、北町という言葉があれば、東町センターという一般的な感じがする。通らないかもしれないが。

(前島公民館長)

おそらく、東センターという名前で定着していると。地域の方にはもうなじみがあることからなかなか難しいのかなと思っている。

(本多委員)

本町分館と一緒にあるか。

(前島公民館長)

本町分館はまたいろいろなことがあって……。

(樹委員)

西之台の図書室、私はそこが住まいが一番近いが、子供たちも余りにも頼りなくなってきてだんだん行かなくなるという感じになっているが、これをどのように、拡充は楽しみにしているが、予算等とれているのか、また、どのような予定で進めようと思っているのか、簡単に構わないので、わかる範囲で願います。

(上石図書館長)

移動図書館車を廃止にすることによって、本来的には移動図書館車は中央線の北側補完ということできてきたが、その後、貫井団地へ行ったり坂下のほうへ行ったりしてきた。それで、この資料にもつけたが、西之台図書室の周りには、三楽と貫井南団地と丸山台の施設があるが、その関係で、そこの移動図書館車を廃止する、ただし、西之台には拡充したほうがいいんじゃないか、拡充しなくてはいけないんじゃないかということで、55平米というとても小さな面積の図書室であるけれども、それを今現在、月、火、木、金が午後1時から5時までの開館だったものを昼休みも開館するというので、10時から5時までにする。そうすると、1日3時間増ということになる。土日については、現在、10時から正午まで。そしてお昼休みをとって1時から5時までであったが、昼休みを開館することによって、1時間開館時間が増えることになる。

毎週水曜日と第1金曜日と祝日をお休みさせていただいたものを、会館の休館日が第2第4水曜日であったので、そこを一緒に休ませていただく。祝日だけは、どうしても人数的に配置できないので祝日をお休みするけれども、月5と休んでいたものを月2と祝日を休みにする。

そうすると、年間で865時間増ということになり、現在の1.67倍になる。日数では34日増えることになり、1.12倍になる。そのように開館時間を増やすことによって、利用者が昼休

みに行ったけどだめだったとか、午前から行ったけど午後から開始だったということの不便をおかけしていたけれども、開館時間は10時から5時までやるということで、かなり利用が高まると思っている。蔵書数については、あれ以上増えないので、蔵書の中身については今後、予算との絡みもあるが、刷新していきたい。今まで古い本ばかりで、新しい本も入れてはいるが、その本は貸し出されてしまって、残っているものがいつも同じものが鎮座しているという形だったと思うけれども、狭いながらもやり方はあると思っているので、蔵書の刷新、あと、雑誌数も少し増やしたいと思っているが、そちらのほうも予算の議決が3月になるので、議会が終わってからということになるが、そのようにさせていただきたいと思っている。

(樹委員)

わかった。

(上石図書館長)

周知のほうも、開室、開館拡大を4月1日と考えているので、できたら3月15日ごろに予定ということになってしまうので、表現が難しいかと思うが、予定ということで載せることを今考えている。

(中村議長)

それは市報か。

(上石図書館長)

はい。やはり市報が一番皆さんがごらんになるということで。移動図書館車の廃止についても、利用者の方には議会、教育委員会のほうで報告しているので、周知を始めている。今日お出しした移動図書館の経過とかいったことを記載したものを1枚ずつ渡しているという状況である。今週火曜日から配布している。

特に、やめられてしまうのかという感想は2、3件聞いているが、そもそも資料にもお出ししているが、今現在とても利用が少なく、利用者がいなくはないのであれだが、19ページに資料としておつけしている1回当たりの利用者数が7.5人となっていて、こちらのほう、多いところは十数人いらっしゃるが、少ないところは2人とか、3人とか、行ってもゼロというステーションもあるので、費用対効果というより各施設を使っていただくということで、利用の案内にも施設のご案内を、市境の方もいらっしゃると思うので、府中市と、あとは西東京、武蔵野市といった近くの市境の方には、本来的には半径1キロでカバーできていると思うが、1キロ圏内ということで、また市境の方にはそういった施設のご案内も一緒に含めた周知をさせていただいている。以上である。

(西田生涯学習部長)

ほんとに貫井北ができて、激減してしまったというのが現状である。この間も実は見に行って、誰もずっと開設時間中に来なかったということもあった。

(中村議長)

質問だが、今、西田部長がおっしゃった配本サービスは、私はちょっと不勉強で知らなかった

のだが、どんなシステムなのか。

(西田生涯学習部長)

これは図書館のほうに、そのサービスというのが実は今ある。お配りした資料の11ページの下から8行目、特に宅配サービス事業については、ほとんど市民が知る機会がなく、実施件数も減少傾向にあることがわかった。こうしたサービスが云々とあるように、ハンディキャップを持つ人に対して、こういうことを申し込んでいただければ、お届けをするサービスがあるということである。

(中村議長)

これは無料なのか、有料なのか。

(西田生涯学習部長)

無料である。今まではそういうふうに行っているということである。

(上石図書館長)

補足だが、ハンディキャップ・サービスの実施要綱というのがあって、その中に視覚障害者のみならず、家から出られない、入院されているとか、寝込んでしまっている方とかいった方々に本館で行っているサービスだが、本館の担当職員に電話をしていただければ、ご希望の図書を職員が宅配している。

(中村議長)

職員の方が。

(上石図書館長)

現在はサービスがそんなに多くないので、年7回とか、昨年度がそうだったのだが、ただ、職員が宅配しているということで、個人情報を守るということで、宅配バッグと行って、ほかの方にはわからないような形でお持ちして、バッグごと返していただくという、読書の秘密を守るということで行っている。それがあまり多くなれば、他市ではボランティアさんも導入してやっている市もあるけれども、現在のところは、ハンディキャップ・サービスの担当でいけているというサービスなので、多くなれば考えなくてはいけないとは思っている。

(西田生涯学習部長)

今図書館長が言ったように、人が多くなると今の体制では対応できなくなってしまう。そういう意味でいっても、市民協働とか、市民の中で助け合うという精神が今後非常に重要なものになってくるので、では、すぐここで有料にするのかという前に、ボランティアの方たちを募って、そういう方にちゃんと守秘義務として、宅配ボックスをあけて中をのぞいたりしてはいけないというようなことでやっていただける方を募るということも今後考えていかなければいけないかとは思っている。

であるから、まず、ボランティアの方とかいう形で、自発的にやっていただける方みたいなことを我々は期待したいとは思っている。まだ今の件数だとそんなにではないが、この間の答申ではもうちょっと宣伝しなさいというお話ではあった。

(石田委員)

補足する。職員の方は自転車で市の中を全部配達しているということなので、もうちょっと楽な方法はあると思う。ただ、やっぱりこのサービスはもっと宣伝して、充実させていく方向が市にとっていいのではないかという意見は答申にも盛り込んでいったら。

(中村議長)

この宅配サービスについては、利用の制限はあるのか。それとあと、大体どのぐらい利用されているか、さっきちらっとおっしゃった。

(石田委員)

七、八件。

(上石図書館長)

小金井市立図書館ハンディキャップ・サービス実施要綱というものの中に、資料の宅配、郵送ということで、郵送もうたっているのだが、郵送はお金がかかってしまうので、現在は外出が困難な方から口頭または電話等で申し出があった場合、宅配により資料の提供を行うということで、1項目入っている。

ただし、郵送によることもできるというのもついているが、郵送はお金がかかってしまうのと、日数もかかってしまうので、宅配であるので、手渡しが基本なので、職員がその方の都合をお聞きして、今日の3時ぐらいなら玄関先に出られるという様なことでやっている。床に伏せている方とか、家族がおられない方もいらっしゃるので、かなり個人情報が出てしまうので、その辺で職員ということをやっている。

ただし、他市では、ボランティアさんを導入しているということもあるので、ボランティアさんの導入も今後、研究、検討していかなくてはいけないとは思っている。

昨年度は7回、その前の年が15回。

(中村議長)

減っている要因は何かあるのか。

(上石図書館長)

利用者さんの都合がやはり多い。元気になられる方もいらっしゃるし、本を読む場合ではないということで、お一人常連さんがつくと、今回も2回、3回出て、今月出ているので、そういった常連さんがいらっしゃれば、宅配数が上がる。

(中村議長)

ありがとう。

では、報告事項の1、東センターの事業運営等については以上でよろしいか。ほかにご意見あるか。大丈夫か。

では、報告事項の2に移る。関東甲信越静社会教育研究大会について。

(石原生涯学習課長)

本会議での報告の機会が事務局の失念で今回に延びてしまって申しわけない。原嶋委員からの

報告書と、あと本多委員からの資料の提供があったので、お二人からコメントがあればお願いしたいと思う。

(2) 関東甲信越静社会教育研究大会について

(原嶋副議長)

読んでいただければと思う。本多委員さんと、大事な分科会が翌日にあるのだが、全体会だけ出て退出した。前回話したように講師

山下さん、教育委員会、社会教育委員、PTA連合会、あるいはもろもろの関係団体を集めて、交流センター等を利用して、オリンピックも前なので講演していただければ盛り上がるのでは。ぜひお願いしたいところである。

あと、シンポジウムはいつも我々が求められる題材なので、ずっと聞き入っていた。コーディネーターの女性の教授、社会教育委員の代表の方があちこち方向を変えるので言うものだから、とまどっていらした。それもまた緊張してよかったかと思っている。

あと、本多委員のほうから用意していただいたシンポジウム用参考資料、これは結構家庭の話題とか、あるいは大人の話題のこと、結構おもしろいのも題材として入ってきているかと思ったので、資料としてつけさせていただいた。

本多委員のほうから何かあるか。

(本多委員)

私の方は、ソフトな部分であるが。記念講演の山下さんのお話も聞き入ってしまったが、シンポジウムのテーマが6つの内容でなり、それに対して会場の人たちの協力をぜひお願いしたいと言われた。コーディネーターの本庄陽子さんが出版物の紹介、本の宣伝をされた後に、そのちらしを使い、イエスは表面、ノーは裏面と掲げることになりました。

聞く側の私たちが講演者との参加型になってしまいました。

「そもそも社会教育委員とは何かと説明できるか」と「社会教育委員に何を求められているか」私どもが問われて、自分自身のイエス、ノーを出すのです。

「多くの自治体ではどうしてこの制度を活かしきれないのか、機能していると思いますか」と

「社会教育委員とは、具体的に何をすればいいのか、」と問われた。

「行政担当の職員は、社会教育委員と具体的にどう関わっていけばいいのか」

これは私たちではなく参加されている職員の方々に問われていた。

「これからの社会教育委員は、現在私たちが受けられていることに対して求められていることは何か、また、答えが具体的に出るか」と問われた。

先ほど原嶋委員が言われたように、コーディネーターの方が話を飛ばすと、基調提案の坂本登さんが、こちらも教育委員長をされた経験からの面白い話を現実的な本音で話し、この舞台でここまで言うかと、いうことまでおしゃべりになる。シンポジストの3人の方、九州女子大学授、綾瀬市の社会教育委員、それから、松田町教育委員会教育課の静岡の生涯学習係長の方も活発な意見を話され、会場が1つになった。

その時の写真を今、回している。雰囲気は伝わるかと良いが、私なりにまとめた。以上である。

(中村議長)

今のご報告についてご質問はないか。大丈夫か。

(本多委員)

それで、ほんとうに翌日の会に欠席したことがすごく残念であった。あれだけ盛り上がったグループがそれぞれ分かれたところで、多分情熱がまだ続いたままでいくのかと思ったら残念で、原嶋さんもそうだと思うが、出ればよかったという反省はしている。

(中村議長)

ご質問等がなければよろしいか。

それでは、その他で報告事項。

(3) その他

ア 調布市社会教育フォーラム2015について

(石原生涯学習課長)

調布市さんのほうから、この前の都市社連協のテーマにも関連すると思うが、調布市社会教育フォーラム2015を3月11日に調布市のたづくりのほうで開催されるというご案内をいただいたので、皆さんの封筒の中に入れてさせていただいた。お時間があつたらぜひご参画いただきたいと思う。

(本多委員)

昨年これは見た。

(中村議長)

見たか。同じ内容であるか、「シャドー・ボクシング」。3月11日水曜日、午後6時から8時半。ほかに報告事項はあるか。

イ 次回の会議内容について

(石原生涯学習課長)

先ほどの課題みたいなもの確認をしたいのだが、次の3月19日の小委員会で、皆さん、どんな柱にするかということをご議論いただくが、本会議の委員さんに今日の柱の案があれば考えておいてくれという議長のご発言もあったので、3月19日の小委員会前にメールで、本会議だけのメンバーの方は、こんな柱はどうだろうかというものをいただけると、小委員会のほうの議論の助けになるのかと。

(中村議長)

あと、柱もそうだが、キャッチフレーズである。人が育ち何とかかんとかというのがあるではないか。それも含めて考えていただいたほうが良いと思う。第2次については「共に教え合い、学び合い、共に育つ、生涯学習のまちづくり」、このフレーズについては、ある人からは長過ぎるのではないかというお話もいただいている。それぞれ意見はおありだと思うが。キャッチフレーズと、それから幾つかテーマがあろうかと思うので。

(石原生涯学習課長)

うちは、「学び合う豊かなまちづくり」というのが生涯学習課である。

(上石図書館長)

図書館は「いつでも、どこでも、だれでも、なんでも」である。

(西田生涯学習部長)

そういうふうに使っている。

(石原生涯学習課長)

これを参考にして。

(樹委員)

生涯学習の中でもみんなそんなにたくさんあるということか。

(石原生涯学習課長)

キャッチフレーズが分かれているのである。公民館も「いつでも、だれでも、どこでも」といえばそうなのだが。

(石田委員)

参考としてキャッチフレーズを挙げていただくのもおもしろいかもしれない。

(本多委員)

これは、新しい柱を考えてもいいのか。

(中村議長)

いいと思う。

(本多委員)

今あるものをなくすことではなくて、増えても。

(中村議長)

今のは特に考えないでいいと思う。これからということ。

(本多委員)

盛ってから考える。発想は出しておく。

(中村議長)

ご自分でのアイデアでいいと思う。今までの分は白紙にして。

(本多委員)

そうか。そうすると、あまりにも増えると、まとめていくときの時間とかもすごくかかるか。

(中村議長)

その辺を最大公約数的にするのか、あるいは絞り込むか、その辺も含めて議論を。

(本多委員)

では、19日のときはかなり発想を膨らませて持ってきてもいいわけか。

(中村議長)

そうである。膨らませたほうがいいのではないか。

では、石原課長、どうするか。締め切りと、それから……。

(石原生涯学習課長)

あまり期間があき過ぎてもあれなので、3月19日には余裕があるが、3月13日の金曜日までに事務局宛てにメールで送っていただければいかがかと思う。

(中村議長)

3月13日金曜日。では、キャッチフレーズと、それからテーマであるね。テーマは別に幾つでもいいと思うので、それぞれの考えで書いて、あと、くれぐれも欠席委員への配信をお願いします。

(本多委員)

私は当日でいいか。

(中村議長)

そうであるね。小委員会のメンバーは当日でいいと思う。

(原嶋副議長)

むしろちょっと前のほうがいいのではないか。

(中村議長)

そうか。みんなに配信する。

(本多委員)

小山田さんに伝えないと。

(中村議長)

同じでやろう。

(中村議長)

では、3月13日ということで、キャッチフレーズとテーマ、柱になるところを考えていただくようお願いする。

ほかに報告事項は、樹委員、あるか。

(樹委員)

ない。2月24日が次の会議である。

(中村議長)

あと、本多委員からうめまつり。

ウ うめまつりについて

(本多委員)

私どもは10回を過ぎてから、ほんとうにここまで来たかという気持ちでやっている。やはり春一番に咲く花はほかにもあるのだろうが、私は梅が一番だと思っている。梅は別名「兄の梅」と。兄弟でいえばお兄さんということになっていて、私たちは凜とした、すごく寒い中でやるということ、それから日にちは今度の土曜日、明日から始まっている。催しの内容も、私はいつもお茶席ばかりを言っているが、それぞれの日付のところを見ていただくと、公園協会がいろんな

方呼び寄せて、研究者とか、いろんな方面から梅の題材をPRしてやっている。

このとき、公園の大きい広場のほうでは、焼き物の展示会をやっているということらしいが、それはあれとして、ぜひお琴の演奏を聞きながら、野点で一服ということで、よかったら券がこちらにあるので、私が宣伝する間に皆さんに今年はぜひおいでいただきたい。梅の中で熱いお茶を手を持った瞬間が、ほんとうにいいのである。ぜひ日本人の文化をよろしく願います。

(中村議長)

よろしいか。では、野点は2月21日と22日であるね。土日の11時から15時半。日曜日は終わりが早くなるということはないか。

(本多委員)

そうであるね。大体お菓子がなくなり次第ということになっているので、3時半だと、ぎりぎりだとあれなので、できたら30分か1時間前においでいただけると。

(樹委員)

そこまでご心配いただかなくても。

(本多委員)

ほんとうに今年は力を入れて宣伝しているので、よろしく願います。

(中村議長)

では、2月21日、22日。私は行かせていただく。

(本多委員)

よろしく願います。

(中村議長)

21日土曜日に伺う。よろしく願います。

(本多委員)

よろしく願います。もしかしたらそこで市民の違う顔を見て、キャッチフレーズが出るかもしれない。おかげさまで、ほんとうに市民の方が参加していただけてうれしいのである。通りがかりの方とかに聞くと、小金井に10年いるが初めて知ったと。13回であるから、宣伝をやったりしないとだめなのだなと去年つくづく感じて、今年は恥ずかしながら、すまない、宣伝させていただく。

(中村議長)

ありがとう。ほかに報告事項はないか。

石原課長、野川駅伝のことは何かあるか。

エ 野川駅伝について

(石原生涯学習課長)

野川駅伝のことは、好天の中、1月18日に開催されて、天気もよく、気温も今年はそれほど寒くなかったのも、待っている間に体が固まってしまうみたいの方もなく、野川は一部工事しているところもあったが、うまいこと皆さん、速い方は速く、自分のペースを守る方は自分のペー

スを守るということで、盛大に行われたのかなど。走った方だけで1,000人近くの方が走られているかと思う。

それから、参加料が宝くじの補助金とかを使って昨年度までやっていたが、それが終わってしまったということで、黄金井倶楽部さんの自主的な活動でやっていきたいということで、参加料を倍額に値上げしたが、それにもかかわらず、参加数が多くなり過ぎて整理ができないということでお断りしたグループさんも数グループ出たと聞いている。

(中村議長)

ありがとう。ほかに報告事項はないか。

なければ、今日はお忙しいところありがとう。

以上